

## ネギのネギアザミウマに対する光反射資材を組み入れた防除体系

宮城県農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

ネギアザミウマは吸汁による加害のほか、ウイルス病を媒介することから重要害虫とされているとともに、農薬に対する抵抗性の獲得が著しく、薬剤のみによる防除が困難となっている。今回、粒剤の定植時処理と茎葉散布剤を組み合わせた防除および光反射資材を組み入れた効果的な防除体系について確認したので、参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) ネギアザミウマに対して、粒剤の定植時処理と茎葉散布剤を組み合わせることにより8月上旬までネギアザミウマの密度を抑制する(図2)。
- 2) 光反射資材を梅雨明け頃から光のあたる畝片面を覆うように株元に設置することによりネギアザミウマの外部からの飛込みを抑制する(図1, 3)。
- 3) これらの技術を合わせたネギアザミウマ防除体系(図4)によりネギアザミウマの被害を抑制することができる(図2)。

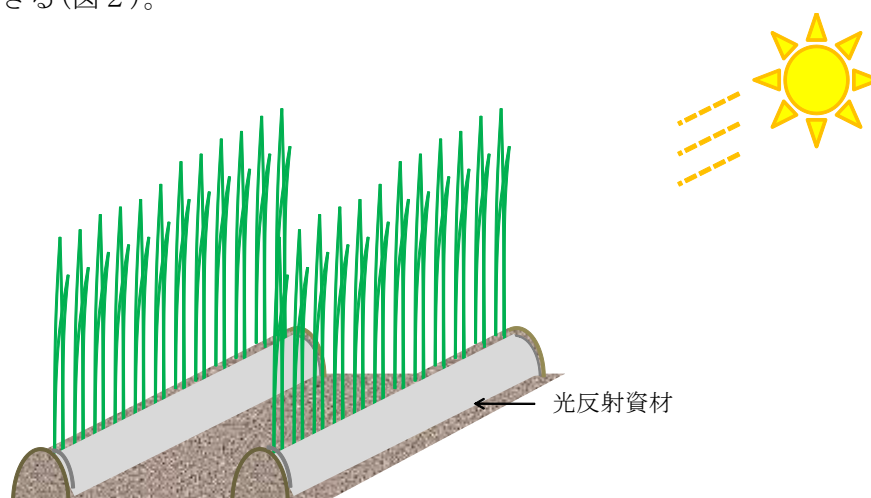


図1 光反射資材の設置位置

### 3 利活用の留意点

- 1) 薬剤抵抗性の発達回避のため、同一薬剤または同一系統の薬剤の連用は避ける。
- 2) 防除効果のある薬剤については、普及に移す技術第87号参考資料「ネギのネギアザミウマに対する数種薬剤の防除効果」を参照する。
- 3) 今回供試した光反射資材はタイベック700AG（1.5m×100m）で、幅30cmに切断して使用し、10a当たり使用量は1.6本である。価格は1本20,000円程度である。
- 4) 光反射資材は、直管パイプを利用した担架型にすることで土寄せの際の除去、設置が簡単になる。また、光反射資材は破損しなければ複数年使用可能なので、使用後は劣化を防ぐため、汚れを落とし納屋など光が当たらない場所に保管する。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8125)

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

野菜のウイルス媒介虫等難防除害虫の総合的管理技術の開発試験(平成21~25年度)

##### 2) 参考データ

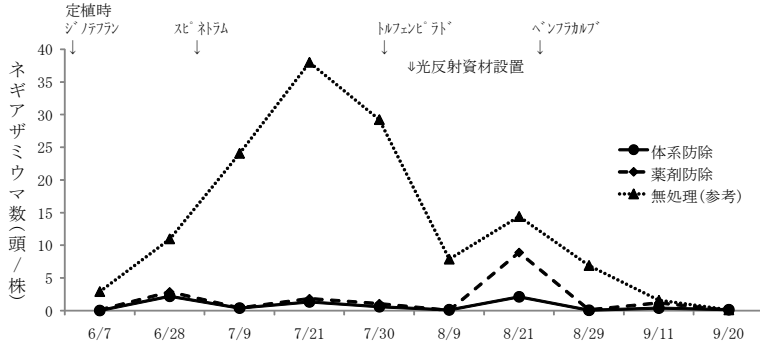


図2 光反射資材を組み入れた体系防除(平成25年)

品種: ホワイトスター 定植日: 5月15日  
 調査: 各区につき1地点10株, 3反復  
 ネギアザミウマ数は各株の上位3葉に寄生する成・幼虫数を計数  
 光反射資材は畝片面を覆うように株元に設置

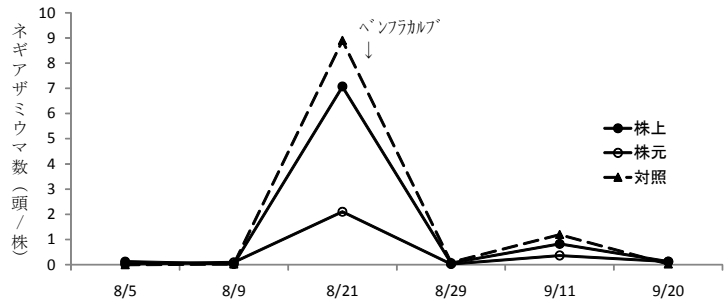


図3 光反射資材の設置位置別防除効果(平成25年)

品種: ホワイトスター 定植日: 5月15日  
 調査: 各区につき1地点10株, 3反復  
 ネギアザミウマ数: 各株の上位3葉に寄生する成・幼虫数を計数  
 光反射資材: 8月5日設置, タイベック700AGを使用  
 株上区: 畝の中央に光反射資材の下辺の高さが30cmになるように地面に垂直に設置  
 株元区: 畝の片面を覆うように光反射資材を株元に設置  
 対照区: 光反射資材は無設置

	5月	6月	7月	8月	9月	10月
栽培暦	定植					収穫
防除対策	薬剤処理 (ジノテフラン粒剤6kg/10a)		散布1回目 (スピネトラム水和剤2500倍)	散布2回目 (トルフェンピラド乳剤1000倍)	散布3回目 (ベンフラカルブマイクロカプセル剤1000倍)	
	* 図中の薬剤は一例として示した				光反射資材設置	

図4 光反射資材を組み入れたネギアザミウマの防除体系例

##### 3) 発表論文等

###### a 関連する普及に移す技術

a) ネギのネギアザミウマに対する数種薬剤の防除効果(第87号参考資料)

##### 4) 共同研究機関 なし